

第3・4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

児童数 5名

授業者 教諭 山下 恵子

1 単元名 灘浦の宝を守ろう！～灘浦の自然と歴史守り隊～

2 単元について

灘浦小学校は、富山湾に面しており、教室からは海越しの立山連峰を望むことができる。校区には、豊かな自然や歴史、文化を感じられる場所や伝統技術が受け継がれており、学習資源が数多く存在している。また、地域の人々とのつながりも深い。本単元では、大境洞窟や海岸、宇波川、大窪大工、白川八幡社等を教材として扱う。これらは、灘浦地区の自然や歴史、文化、伝統技術を代表するものであり、地域の人々が自然と関わりながら暮らし、受け継いできた地域の宝物である。地域調査や体験活動等を通して探究的に学び続けることで、受け継がれてきたもののよさを実感し、地域への愛着を深めることをねらいとしている。

本学級は、3・4年生の複式学級である。3年生3名、4年生2名の子供たちは、学年は異なるが、互いの考えを聞き合い、協力しながら学習を進めている。3年生は、生活科で学校周辺の探検を行い、地域の自然や歴史に触れる活動を行ってきた。また、地域の方々との関わりを通して、地域には大切に守られてきた場所やものがあることに気づき、地域への興味、関心を高めてきた。4年生は、これまでの総合的な学習の時間で、大境洞窟や宇波川、大窪大工、白川八幡社等について調べたり、地域の方から話を聞いたりする活動を行ってきた。一方で、体験活動は豊富ではあるが、子供たちが受け身になりやすく、新たな疑問を見いだしたり、自ら課題を設定して追究したりする活動は十分ではなかった。そこで本単元では、子供一人一人が自ら課題を設定し、多様な方法で課題解決を図る探究的な学習を進める。また、複式学級のよさを生かし、異学年で考えや経験を伝え合い、支え合いながら協働的に学ぶことで、多様な視点から考えを深め、主体的に探究を進められるようにしたい。

本単元では、「灘浦の宝って何だろう」という問いを基に、みんなで調査する場所を決定し、調査場所について一人一人が課題を設定し、探究する活動を繰り返していく。第1次（1学期）では、「宝」の視点を明らかにした。また、灘浦地区にはどのようなものがあるのか、自分たちの経験や学校、自宅の位置とつなげて確認した。そして、「宝」の視点を基に調査場所を話し合った。第2次（1学期・2学期）では、みんなで決めた調査場所についての情報を整理しながら、一人一人が自分の課題を設定する。インターネットによる調べ学習だけでなく、現地調査やインタビュー等、様々な方法で情報収集を行い、地域の魅力や課題について多面的に考えられるようにする。また、調べる活動を通して、地域に受け継がれてきたものの価値や、それを守り伝えてきた人々の思いにも触れていく。そして、それらの学びを通して、灘浦地区の一員として、地域の宝を大切にし、自分たちも守り伝えていきたいという思いにつなげたい。第3次（3学期）では、これまでの探究活動を通して得た学びを基に、「灘浦の宝を守ろう！」をテーマとして、自分たちにできることを考え、発信したり行動したりする活動へとつなげる。地域のよさや課題を自分事として捉え、地域への愛着を深めるとともに、地域の一員として、灘浦の宝を未来へつないでいこうとする態度を育みたい。また、全体を通して、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現という一連の探究の過程を繰り返すことで、自ら問いをもち、友達や地域の人々と関わりながら、主体的・協働的に学びを深める力を育てるとともに、探究することの楽しさ、達成感を味わえるようにしたい。

3 単元の目標

灘浦地区の自然や歴史、文化、伝統技術について調べる活動を通して、地域のよさや現状、地域の人々の思いや努力について理解し、自ら課題を設定して様々な方法で情報を収集・整理・分析しながら地域の魅力や課題について考えを深めるとともに、地域のために自分にできることを考え、行動することができるようにする。

4 単元の評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①目的に応じた適切な方法で情報収集を行い、課題解決に生かしている。 ②思考ツールや表、棒グラフ等を活用して情報を整理・分析することのよさを理解し、目的に応じて活用している。 ③灘浦地区にあるもののよさや現状を理解し、それに関わる地域の人々の思いや努力に気付いている。	①地域の自然や歴史への関心を基に、調べたい課題を見付けている。 ②調査する対象に応じた方法を選びながら必要な情報を収集している。 ③課題の解決に向け、集めた情報を比較したり関連付けたりして考えている。 ④自分の考えを具体的な事実や資料を根拠にしながら、表や文章、図等で分かりやすく表現している。	①灘浦の自然や歴史に関心をもち、自分なりに問いをもちながら学びに取り組もうとしている。 ②友達と協働しながら課題の解決に向けて取り組もうとしている。 ③生活と関連付けながら、地域に愛着をもち、積極的に関わろうとしている。

5 研究主題との関連

視点1 課題設定の工夫

① 主体的な探究につながる題材選択

「灘浦の宝」を調べるにあたり、調査する題材を決定する際は、教師が一方的に決定するのではなく、子供たちが興味や関心をもったことの中から選択できるようにした。まず、単元導入時には、「宝とはどのようなものか」について話し合う場を設定した。子供たちからは、「美しいもの」「豊かにあるもの」「灘浦にしかないもの」「守られてきたもの」

などの考えが出され、「灘浦の宝」を見付けるための視点を共有した。その視点を基に、子供が調査したい場所について考え、調査場所を決定した。最初に調査する場所として選ばれたのは「大境洞窟」であった。選んだ理由として、「一番古く歴史があるものだから」「灘浦にしかないものだから」など、共有した「宝」の視点と結び付けながら考える姿が見られた。調査を進める中で、「一番古い歴史」が「縄文時代からの歴史」になり、「灘浦にしかない」が「日本で初めて調査された洞窟遺跡」へと、より詳しい知識につながっていった。また、「土器」や「六つの文化層」等のキーワードに触れ、新たな疑問やもっと深く知りたいことが生まれた。そして、子供たちは図鑑で調べたり、現地に赴いたりして、積極的に情報を集めた。このように、自分たちで選んだ題材を出発点とすることで、興味・関心をさらに高め、自分の調べたい問いや課題に出会い、知識を深め、生き生きと探究活動を進める姿が見られた。

② 知識や情報の共有を通した課題設定の工夫

子供たちが探究活動を主体的に進めるためには、自ら「調べたい」と本気で思える課題を設定することが重要である。そのため、子供自身が追究したいと思える課題を設定すること



〈宝の視点〉

が、その後の探究活動への意欲や学びの深まりにつながると考えた。そこで、本学級では知識や情報を共有しながら、自分が追究したい課題を選択し、設定することにした。3年生は、生活科で町探検を経験しているものの、総合的な学習の時間において、自ら課題を設定し、解決に向けて探究を進める学習は初めてである。そのため、何を調べたいのかを具体的にイメージすることが難しい様子が見られた。また、4年生は、昨年度から灘浦の自然や歴史について、体験活動を中心に学習してきており、地域についての知識や経験をある程度もっている。しかし、「知っている」という意識が強く、新たな疑問を見付けたり、さらに追究したい課題を設定したりすることが難しい様子が見られた。そこで、課題設定の前に、題材に関する知識や情報を学級全体で整理、共有する時間を設けた。3年生にとっては、初めて知る情報や新しいキーワードに触れる機会となり、「もっと知りたい」と思える課題を見付けることができた。また、4年生にとっても、自分の知識を3年生に伝えたり、質問に答えたりする中で、知識が曖昧な部分やまだ知らないことに会う機会になった。このように、課題設定の前に、知っている情報を学級全体で整理し共有することで、子供たちは自分の知識を見つめ直し、新たな疑問や関心をもつことにつながったと考える。

視点2 学び合いの工夫

① 「考えるための技法」を活用した学び合いの工夫

子供たちが探究活動を深めるためには、目的に応じて情報整理や表現の方法、思考ツール等を選択し、活用することが大切である。また、それらを活用することで、自分の考えを分かりやすく伝えたり、友達の考えと比較したりしながら、対話を通して考えを深めることができる考えた。そこで、探究の過程において、他教科で学んだ情報整理や表現の方法を、子供同士が相談しながら活用する場を意図的に設けた。情報収集の場面では、「全校のみんなの考えを知りたい」という子供の思いからアンケート調査を行い、目的に応じた質問を考えながら必要な情報を集めた。整理・分析の場面では、集めた情報を表やランキング、棒グラフ等で整理し、それぞれの表し方のよさを比べながら考察した。このように、学び合いの中で様々な情報整理や表現の方法に触れ、それぞれのよさを確かめながら活用することで、子供たちは目的に応じた適切な方法を選択し、探究を深めることができた。また、考えを可視化して共有することで、互いの考えを比較したり、新たな視点を得たりしながら、建設的に話し合う姿につなげることができた。今後さらに、学び合いを通して思考を深め、課題に応じて適切な方法を選択・活用できる力を育てていきたい。

② 異学年での学びを生かした学習形態の工夫

本学級では、複式学級で学ぶことを強みと捉え、異学年が互いのよさを生かしながら学び合うことを大切にしている。総合的な学習の時間においても、それぞれの経験や技能を生かし、支え合いながら学びを深めることができるよう、3・4年生のペア活動や全体の交流活動を意図的に設定している。その際、4年生が一方的に教えたり手助けしたりするのではなく、まずは3年生の疑問や考えを聞き、3年生自身が考え、できることを増やせるような関わりを大切にしている。また、3年生も、4年生の考えや知識を聞くだけでなく、自分の気付きや疑問を積極的に伝え、自分の力で学びを進めていくことを意識できるようにしている。全体で考えを交流する場では、学年を越えて互いの考えを共有し、それぞれの経験や知識を学びに生かせるようにしている。異学年で活動することで、互いのよさや違いを理解し、役割を分担したり、教え合ったりしながら、子供たちが学びを工夫し、調整しながら学習を進めることができるようにしたい。

6 単元構想（全 56 時間 本時 27/56 時）

小単元(時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
灘浦の宝って なんだろう (5)	【課題設定】 ・「宝とは、どのようなものか」という共通の問いから、「宝」の視点をはっきりさせ、みんなで調査する場所を設定する。			①	発言分析
	【情報収集】 ・これまでの経験や灘浦すごろく、地域マップ、アンケート等から情報を集める。	①	②		行動観察 ワークシート
	【整理・分析】 ・収集した情報をランキング形式やグラフにまとめ、自分たちの考えと比べながら調査場所を考える。	②	③	②	発言分析 行動観察 ワークシート
	【まとめ・表現】 ・「宝」について共通理解し、調査する場所の候補をまとめる。	③		③	発言分析 ワークシート
灘浦の自然や 歴史を調査し よう (40)	【課題設定】 ・大境洞窟、灘浦の海、宇波川、大窪大工等、みんなで決めた調査場所から個人テーマを設定する。		①	①	発言分析 ワークシート
	【情報収集】 ・文献資料やインターネット等を使って資料調査を行う。 ・現地に赴いたり、地域の方へインタビューしたりして、現地調査を行う。	①	②		スマイルネ クスト 行動観察 ワークシート
	【整理・分析】（本時） ・それぞれが調べた情報をもち寄り、比較したり、関連付けたりしながら、知識を広げ、深める。	②	③	②	発言分析 行動観察 ワークシート
	【まとめ・表現】 ・調査場所について、「よさ」や「課題、現状」を話し合い、「灘浦の宝ポイント」を考える。 ・調査して分かったことを「灘浦新聞」にしてまとめる。	③	④	③	発言分析 発表資料 ワークシート
灘浦の宝を未 来につなご う！ (11)	【課題設定】 ・「灘浦の宝をこれからどうしていきたいか」「どんな思いを伝えたいか」を考え、自分たちにできる発信、行動テーマを決める。			①	発言分析 ワークシート
	【情報収集】 ・自分が伝えたい内容に必要な資料（これまで調べてきたことや写真、インタビュー等）を改めて整理したり、見直したりする。	①			発表資料 行動観察
	【整理・分析】 ・伝える相手に応じた表現方法を選び、内容を分かりやすく再構成する。	②	②	②	発言分析 行動観察 発表資料
	【まとめ・表現】 ・地域の方への発表会を行い、自分たちが調べたこと、考えたこと、感じたことを自分の言葉で伝える。	③	③	③	発表資料 発表の様子 ワークシート

7 本時の学習（第2次 22／40時）

(1) 目標

自分が調べた灘浦の海に関する情報を共有し、共通点を考えることで、「灘浦の海」についての魅力や価値について考えを深める。

(2) 展開

学習活動（時配）	指導上の留意点 研究主題説明への方策 ①課題設定 ②学び合い 評価（方法）
1 前時の振り返りを確認しながら、本時の課題と学習の流れを確認する。(5) ・前の学習では、蛇が島について伝えたいことを相談した。 ・定置網のしくみや魚について調べたことをみんなに伝えたい。	①前時の振り返りを確認し、前時の学習を想起するとともに、本時の見通しをもつ。 ・「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめの学習」の学習過程を提示しながら授業を進める。
「灘浦の海」の宝ポイントはどんなことだろう	
2 各自が調べたことについて、ペアごとに発表する。(10) ・蛇が島への遊覧船について調べた。自分の家も蛇が島遊覧船に関わっていたことを知り驚いた。 ・定置網で獲れる魚について調べた。ぶり以外にも様々な魚がいることを知りすごいと思った。	・前時に伝えたい内容をペアで相談しておくことで、効率よく発表できるようにする。 ・スマイルネクストで記録した情報や写真を見せながら伝えるよう助言する。 ②発表を聞き合うだけではなく、発表者以外も、発表の感想や全体で行った校外学習、インタビュー活動等で知ったことや感じたことを付け足していく。
3 蛇が島にも定置網にも当てはまることは何かを考える。(15) ・様々な生き物がいるということは、海がきれいなのだと思った。 ・どちらにも歴史がある。 ・どちらも海や島の環境を守ろうとしている人がある。 ・蛇が島に行きたいけれど難しいそうだ。 ・定置網の見学も今はできない。近くで見たい。	②「どちらにも当てはまること」を探す思考ツールとしてベン図を使う。 ②調べた場所が異なる子供同士でペアを組み、相談することで、それぞれの立場から共通点に気付けるようにする。 ・共通点が見付からない際は、「人」「自然」「生き物」「歴史」等のキーワードを提示する。 ・よいことだけでなく、残念なことや改善点についても考えるよう伝え、多面的に共通点を捉えられるようにする。
4 「灘浦の海」の宝ポイントについて考える。(10) ・自然や環境を守りたいと守っている人がいること。 ・灘浦にしかない生き物がたくさんいること。 ・実際に行けなかったのが残念だ。	・「宝」の視点を確認し、調べた情報と「宝」とをつなげて考えられるようにする。 ・宝物度を星の数で表すことで、子供たちが考える灘浦の海の価値を数値化し、話し合う。 ・共通点を確認しながら「宝ポイント」を整理していく。また、残念なことや改善点についても「残念ポイント」としてまとめる。
5 本時の学習を振り返る。(5) ・灘浦の海のよさをみんなでまとめることができた。灘浦にはたくさんの生き物がいることが分かった。また、それを守ろうと頑張っている人がいることも灘浦の海のよさだと思う。 ・蛇が島に行ったり、定置網の漁を見たりすることができないのは残念だ。どうしたらできるようになるのだろうか。	①次につながる振り返りを共有することで、次への学習の意欲を高める。 〈思考・判断・表現〉 自分や友達が調べたことから、共通点を見付け、「灘浦の海」のよさを考えている。 (発言・ワークシート)

(3) 授業の視点

ペアで調べたことを全体で情報共有し、共通点を考える場を設けたことは、「灘浦の海」のよさや価値に気付く上で有効だったか。